

待ちました。 ナベヅル第1陣4羽の渡来

去る10月27日、8時25分に4羽のナベヅルが渡来しました。去年より6日早く、時刻は約2時間遅かったです。いつもの時刻に来なかつたので「今日は来ない」と諦めていた時に、いきなり出てきたので一瞬目を疑い、それが待っていたツルだったので感動しました。

4羽はつがいの成鳥2羽と幼鳥2羽で、成鳥1羽の足の片方が飛びとき下がっているのと、幼鳥の首の色が濃いので、少なくとも14年前から渡来しているツルだと分かりました。ツルではかなり年なのに去年も2羽、今年も2羽子どもを連れて来るとはすごいなと思いました。残念ながら去年の子どもも一緒に来れば良いのに、多分出水に行つたのでしょう。だから八代のツルは増えないのです。

これから、去年放鳥ツルと仲良くなったツルや3月にやってきた4羽など、もっと多く渡来することを願っています。



先頭を飛んでいるのが足の悪いツル、頑張っています。 写真提供 則安 進さん

岡南市ツル保護研究員 河村 宜樹

6・6・9・6・6・96・6・9・6・6・96・6・9・6・6・96・6・9・6・6・9 漫画家 なかはらかせむ から 八代へのメッセージ! (No.16)



ツル放鳥特集



保護ツルの様子と 今年の放鳥について

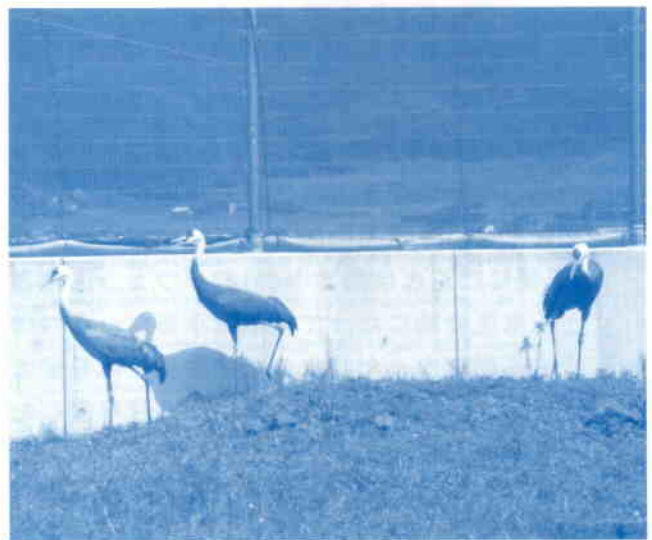
今年の酷暑は人間にとっても大変つらいものでした。ツルにとってもこの暑さはこたえたのではないのでしょうか。毎年、夏になるとスプリンクラーを稼働させるなどの暑さ対策を取っています。今年は6月の始めにはかなり気温が上がったため、例年より少し早くからスプリンクラーを使い始めました。

元々、スプリンクラーはケージ内の温度を下げるために設置をしたのですが、毎年ツルのシャワー代わりにになっている様子が見られます。スプリンクラーの作動中、1時間でも2時間でも水の下で立っている姿は、センター内での夏の風物詩でもあります。

夏の出来事として、もうひとつ昨年に引き続いて保護ツルの換羽が確認されました。平成20年4月に移送されたこのツルは現在3歳で、保護センター内での換羽で、はじめて年齢が確認できました。ナベツルの換羽については、まだまだわからないことも多いのですが、保護ツルの放鳥を行ううえで非常に重要な情報となることから、引き続き調査を進めていこうと思っています。

次に放鳥についてですが、今年は過去最大となる6羽のツルの放鳥が予定されています。構成は、平成20年の2羽（4羽移送で2羽は放鳥済み）と今年3月移送の4羽で、性別はそれぞれ、オス1羽とメス5羽です。

今年の放鳥は、山口県の委員会で、渡来した野鶴の数に応じて放鳥数を決定するとしていますので、10月27日に渡来した野鶴の羽数4羽を元に、まずは、3月に移送した3羽を11月10日に放鳥し、その後、他のツルについては放鳥時期を決定します。放鳥は、例年通りの自然放鳥（ツルの意志に任せた放鳥方法）で行うこととしています。



はじめに放鳥を行う3羽の保護ツル



周南市教育委員会 文化・スポーツ課
鶴担当 増山 雄士

10月1日に平成22年度第1回

周南市ツル保護協議会が開催され、本年度に実施するツル保護対策事業並びに野鶴の飼育ツルの状況について報告を行った。

(1) 保護ツルの状況について

本年度確認されたナベツルの換羽について

08—1R（メス、3歳）が6月27日から7月2日にかけて風切羽の脱落が確認され、順調に換羽が進み8月初旬には完了したものと思われます。

08—3B（メス、年齢不明）は9月1日から9月10日にかけて風切羽の脱落が見受けられた。その後、換羽状況については、監視を継続して行う。

09—4Wの骨折について

平成22年3月27日に移送した幼鳥で5月6日にわずかに跛行する様子が見受けられた。その後、跛行がひどくなったため捕獲・診察後に足を骨折していることが判明した。アルミスプリントで固定する治療を行ない9月16日に捕獲して骨折の治療確認を行ったと報告があった。

その補足説明として、周南市ツル保護協議会委員でこのたびの治療を行なった佐伯獣医より完治の報告がなされた。

(2) 今年度の放鳥ツルについて

3月27日に移送された6羽のうち4羽（足を骨折したツルも含まれます。）と本年度換羽が確認された2羽の合計6羽が放鳥対象と報告された。また、放鳥時期については、野鶴の渡来後に定着が確認された時期に行なうことの説明がありました。



(3) 今年度の取組について（報告）

観光客等の水田内への立ち入りを防止するネットの取り付けについて

本年度も観光客が餌場に侵入できないように侵入防止ネットを設置して安全餌場を確保するために森添地区に高さ100cmで周囲576mの範囲に防球ネット等を設置する。

ナベツルへの給餌方法の変更について

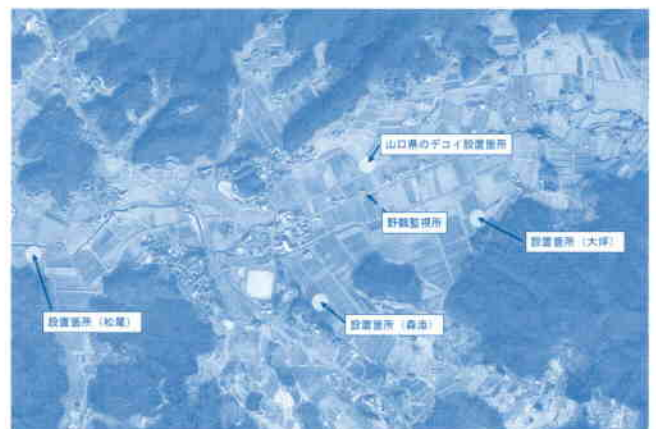
ナベツルへの給餌は、渡来当初には自然餌があるとの観点より、渡来後2週間後を目安に給餌を開始していましたが、渡来当初の給餌が、縄張り争いの軽減になるのではないかとの意見もあり、渡来前から給餌を開始する方法を試験的に実施する。

デコイの分散配置について

なわばりの分散化を促進するため、市所有のデコイを分散配置して縄張りを追われたツルの降り場を確保することができ、飛去するツルを八代に留まらせるために大坪、森添、松尾の3箇所各3体等のデコイを設置する。

(4) 地元保護団体の取組について

保護団体の代表としてナベツル環境保護協会からアサヒビール(株)の寄付金を活用してネグラ整備の内容が報告された。内容は市所有のネグラの両脇の立木を約4000㎡を伐採する報告がありました。



デコイの設置場所